

話題の 十字路

置賜地域で高速道路と主要国道の整備が加速しつつある。東北中央自動車道の福島JCT(ジャンクション)―米沢北間二十七キロは新直轄方式で整備が進められており、地域高規格道路「新潟山形南部連絡道路」(約八十キロ)の一部として工事中の国道13号赤湯バイパス(南陽市竹原―高島町深沼間七・二キロ)は二〇〇八年度に全線開通する見通しとなった。置賜地域の高速交通網の整備状況をまとめてみた。

整備進む置賜の高速交通網

置賜の地域間交流の促進に向けて大きく奇貨とするのが東北中央道福島JCT―米沢北間だ。〇三年度当初までに三百一十億四千三百万円の工事費が配分された。本年度は要子トンネルの避難坑約八キロが発注され、工事が

設置する新直轄方式で整備する(ことが決まり、〇五年度当初までに三百一十億四千三百万円の工事費が配分された。本年度は要子トンネルの避難坑約八キロが発注され、工事が

北間の完成時期は二〇一〇年代前半とみられる。東北中央道と同じ、縦横の整備では、国土交通省山形河川国道事務所が国道13号上山バイパスが配分された。本年度は要子トンネルの避難坑約八キロが発注され、工事が

東北中央道や南部連絡道

今後10年で劇的に変化

本格化する。高速道路の平均的な工期から推測すると、福島JCT―米沢

中山工区(上山市中山―川口間三・七キロ)は〇七年度に開通予定。その

中山工区(上山市中山―川口間三・七キロ)は〇七年度に開通予定。その

南の中川工区(南陽市川樋―上山市中山間三・〇も〇三年度に事業に着手して用地買収を進めており、両工区が完成すれば

上山市内の渋滞区間は一気に解消される。東北中央道南陽高島―山形上山間二十四キロは整備計画区間のままだが、当面は国道13号上山バイパスが東北中央道の代替機能を担うことになる。さらに東北中央道福島JCT―米沢北間は新直轄方式で整備されるため、通行料金は原則的に無料となる見



一方、新潟山形南部連絡道路は新潟―置賜―仙台間を結ぶ、横軸の地域高規格道路として計画された。東北中央道南陽高島ICと日本海東北自動車道の荒川IC(仮称)を結び、延長は約八十キロ。計画路線のうち、山形河川国道事務所は国道13号赤湯バイパスの整備(南陽支社・石井秀明)を進めている。全区間を高盛り土方式で整備し、国道13号と国道2カ所の計三カ所に立体交差のICを設ける。南陽市鍋田―高島町深沼間一・二キロは〇三年に一部開通。今後は南陽市島貫―鍋田間二キロが〇七年度に開通し、残りの竹原―島貫間四キロは〇八年度に開通する見通しだ。

赤湯バイパスが完成すると、南陽市内をノンストップで横断できるようになり、高島町から公立置賜総合病院(川西町)までの所要時間は、現在の二十九分から二十一分へと約八分間の短縮が見込まれる。

置賜地域の高速交通網は、二十年度で劇的に変化。隣県との地域間交流の拡大に向けて、各市町は今から態勢を整えておく必要がある。

置賜地域の高速交通網は、二十年度で劇的に変化。隣県との地域間交流の拡大に向けて、各市町は今から態勢を整えておく必要がある。